

福岡大学医学部同窓会

# 烏帽子会会報

第 20 号

第 15 回

福岡大学医学部同窓会総会

平成 8 年 7 月 13 日 (土) 午後 6 時

福岡国際ホール

福岡市天神 1 丁目 4-1 西日本会館 16 階

(詳しくは次ページをご覧ください)



建築中のヘリオスプラザ (60周年記念館・学生会館)

## 第15回 福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会ご案内

下記の通り第15回福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会のご案内を申し上げます。  
正会員、学生会員、準会員、特別会員、多数の会員のご参加をお待ちしています。

記

日 時	平成8年7月13日(土)
	◆同窓会総会 ..... 18時00分
	◆講演 桜木忠和助教授(3回生・麻酔科学) ..... 18時40分
	◆懇親パーティ ..... 総会終了後・19時20分頃
	会費 正会員、準会員、特別会員 ..... 5千円
	学生会員 ..... 1千円
	◆合同二次会(会費3~4千円) ..... パーティ終了後・21時頃
場 所	福岡市天神1丁目4-1 福岡国際ホール(西日本会館16階) Tel 092-712-8855
出欠通知	同封の葉書により6月25日(火)までをお願いします。 ・学内勤務の方は医学部事務課のメールボックスにご投函下さい。筑紫病院 の方は学内便をご利用下さい。 ・学生会員の方は医学部事務課または同窓会事務局にご持参下さい。

平成8年5月15日

会 長 高 木 忠 博 (1回生)  
幹 事 小 金 丸 史 隆 (3回生)  
〃 馬 渡 秀 仁 (8回生)  
〃 笠 健 児 朗 (12回生)

### 目 次

第15回福岡大学医学部同窓会	鹿児島支部(ほっけもん会)
烏帽子会総会ご案内 ..... 2	発足にあたり(山下 互) ..... 11
教授退任挨拶	七隈支部設立さる(林 英之) ..... 11
退任にあたって(江崎廣次教授) ..... 3	会員数関係情報 ..... 12
退任にあたって(坂本公孝教授) ..... 4	福岡大学附属大濠中学校を開校 ..... 13
みはてぬ夢(調重昭教授) ..... 5	キャンパス便り
教授就任挨拶	第15回医学祭を開催して(高橋 聡) ..... 14
教授就任ご挨拶(加藤寿彦教授) ..... 6	ラグビー愛好会 ..... 15
会員寄稿	バスケット愛好会 ..... 15
柳川山門医師会副会長及び看護学校	準硬式野球愛好会 ..... 15
副校長就任にあたって(甲斐 保) ..... 7	アーチェリー愛好会 ..... 16
準会員として入会して(司城博志) ..... 8	ゴルフ愛好会 ..... 16
準会員募集について ..... 8	福大病院・筑紫病院外来診療担当医表 ..... 17
今後の同窓会の発展のためにII (井上隆則) ..... 9	医局長・医長名簿 ..... 19
教室紹介	教員人事 ..... 20
薬理学教室 ..... 10	会議報告 ..... 20
支部便り	事務局よりご連絡 ..... 21
	編集後記 ..... 22

## 教授退任挨拶

## 退任にあたって

衛生学 教授 江崎 廣次

昭和49年に久留米大学から初代の衛生学教授に就任して早や22年が経ち、3月末で退任することになりました。時の流れの早いのにびっくりしています。私は私学で育ったものですから福岡大学医学部では、楽しく教育と研究を続ける事ができました。幸運だったと思っています。

私の研究分野は農村医学であり、県下の農業労働と健康について長年調査研究を進めてきました。特に農作物の種類により、農作業の態様の違い、従って農作業従事者に及ぼす作業負担も異なっています。米作農業は勿論、ハウス栽培が普及している今は、各種の農作業について調査をしています。各農作業に共通な調査は、全員を対象にした健康アンケート調査があり、これで、その農作業の特徴と問題点を把握します。次にそれぞれの農作物に特徴的なものを取り上げて労働による生体負担を明かにして、対策を打ち出していきます。

田主丸町の巨峰ぶどう栽培では、上肢の筋電図測定により、摘房・摘粒・袋かけなどを仰いでの上肢作業の負担を追求しました。北野町のパセリ収穫作業は、殆ど一日中、中腰作業を強要されます。そこで腰椎可動角度の測定により、腰痛との関係を明かにしました。電照菊栽培は、ハウス内において農薬散布を毎週1回の割合でしますから、作業員への曝露が問題になります。朝倉町の万能ねぎ栽培は、ねぎの皮むき作業が、手先の仕事で、終日、腰掛け作業が続きます。従って現場の環境特に目先の明るさ（ルクス）、作業台と腰掛けの高さが疲労と密接な関係にあります。浮羽町の富有柿は、スピードプレイヤーによる農薬の散布による曝露量の測定をして、農薬から作業員を守るための対策を勧告しました。しかしこのようなフィールド調査は、天候によって、たえず変更を余儀なくされる

ので、教室員の苦労は大変なものでした。学生の教育面では、81年度入学生（81代）と、87年度入学生（87代）と引き続き12年間、主担任、主副担任をしてきました。学生諸君と、1年生の5月にフレッシュマンキャンプで、志賀島国民休暇村や、やまなみ荘でバーベキューを楽しんだこと、3年生の時は、オリエンテーションキャンプで川上峡、龍登園でテーマ別の討論に夜おそくまで語り合ったことなど、今は懐かしい思い出となって残っています。

学生愛好会では剣道の顧問を昭和53年からつとめています。その間、第17回九州・山口医科学生総合体育大会（昭和53年4月29日）と第39回西日本医科学生総合体育大会（昭和62年8月1日）の主管校を引き受け、剣道の大会準備委員長をつとめ、舞台裏での苦労話など今なお印象に残っています。特に西医体の場合は剣道試合の審判員の確保が大変なものでした。

学生諸君を毎年、環境衛生見学実習で、一日貸切バスを連ねて、浄水場、下水処理場、



清掃工場に引率して出かけました。昼食はそれぞれ準備しておいた弁当を広げて、秋日和ののどかな陽をうけながら楽しい、だんらんの一刻を過ごしたものでした。昭和59年度から、テーマ別のフィールド実習を取り入れて、夏休みに1週間実習をするようになり、専属産業医の現地指導をうけています。八幡製鐵所、三井石油化学、BSタイヤなど大事業所での実習は、学生諸君にも人気があり、受入

れ側の評価も比較的よく、福大生は素直であると、言われています。

学生諸君がそれぞれの分野で、国民の全人的医療と保健指導を通じ、社会に貢献出来る医師に育っていくことを楽しみにしながら、私の残された人生を送りたいと願っています。医学部同窓会もがっちりスクラムを組んで、お互いに頑張ってください。諸君の健康と一層のご活躍を心から念じながら筆をおきます。

## 退任にあたって

泌尿器科学 教授 坂本公孝



平成8(1996)年3月末日をもって福岡大学を退職する事になりました。昭和48(1973)年4月、福岡大学医学部に赴任してから23年を経過しました。この間多くの良き先輩、同僚の方々との出会いがありました。まがりなりにも教室の主宰者としての任務を大過なく終えることが出来ますのも、これらの方々のご支援、ご鞭撻によるもので、長年にわたるご厚情にまず謝意を表したいと思います。

福岡大学泌尿器科学教室は有吉朝美助教授(現筑紫病院教授)、大島一寛助手(現助教授)と私の3名でスタートしました。当初はにわかづくりの暫定附属病院(香椎病院)で診療をはじめましたが、昭和48(1973)年8月より現在の福岡大学病院で本格的な大学教室としての業務を開始しました。

大学における臨床教室の活動内容は、教育、研究、診療の3本柱を偏りなく遂行することでありますが、わが国では高度先進医療を大学病院が担っているために、診療のウェイトが重くなっているのが現実の姿であります。しかし“Listen to the patient, he is telling you the diagnosis”(William Osler)という言葉の通り、患者さんはまさしく教科書そのものであります。臨床教育は診療行為が基本となることは申すまでもないことです。とにかく患者中心

の医療を実践している教職員の背中をみながら、教育の実があがるよう努めて来たつもりです。

また患者さんとの密接なコミュニケーションにより生じた未解決の問題をいかに早く解決するかが医学研究の原点だと考えています。少なくとも臨床教室の研究は、成果を患者に還元する義務があると考え、地道に努力したつもりです。さらに研究の質をたかめて、世界に通用する成果をあげることを努力目標といたしました。私自身の力不足のためすべてが期待どおりに進展したわけではありませんが、ともかく20名近くの教室在籍者が学位を取得いたしました。

泌尿器科学教室が開設されてから23年の間、教室に在籍した人は60名を超え(本学卒業生

医26名)に達しました。私自身は教師を指向して福岡大学に赴任したわけではありませんが、結果として教育という職務だけが実績として残ったこととなります。福岡大学に在職した間、講義、臨床実習を通じて2,500名近い学生諸君と接したことになりますが、なかでも第8回生の皆さんには学年担任として6年間つきあっていただきました。また軟式野球部の諸君とは度たび膝を交えて盃を酌み交わしました。これら学生諸君との交流は、一生

忘れ得ぬ思い出として残っていくでしょう。

松尾芭蕉は晩年「つみに無能無才にして只此の一筋に繋がる」という心境を吐露していますが、教職を去るに当たってその真意が何となくわかって来たように思います。

おわりに福岡大学医学部の発展と同窓の皆様のご活躍をお祈りして筆をおきます。

(平成8年3月5日記)



## みはてぬ夢

福岡大学筑紫病院耳鼻咽喉科 教授 調 重 昭

定年まであと7、8年残しながら、平成8年3月で退職することになりました。医学部を出て九大に15年、福大に25年居たことになり、最後の5年間は筑紫病院で過ごしました。この間多くの方々には本当にお世話になりました、有り難うございました。

国試後の2年目には郷里の父が逝き、2年間日田市で開業生活を送りました。その前の2年間の大学生活の1年以上は秋田の小坂病院、山陰は津和野共存病院、筑豊は三井山野と渡りあるき、この4年間の修行時代で得たものが現在迄減りもせず、さして増えもせず続いているといえます。

昭和40年代前半の学園紛争時にはたまたまドイツ・フライブルグに3年近く留学していましたが、この間も得たものがあるとすれば、その分何かが失われるといった具合でした。

帰国後昭和46年9月に福大に移って最初のうちは随分と夢をみさせてもらいました。新

しい病院のビジョン、研究の開発・発展、2回にわたる対馬巡回診療、講義も始まり、学生も卒業し、全国学会、全国規模の講習会等々、毎日が真剣勝負で、張り切っていました。そして時々夢破れて、それをつくろう日々でもありました。

最近では、大学を続けることに疑問を抱きながらも試行錯誤の数年間でありました。友人、そして職場の人達と別れることは淋しいし、大学での仕事に未練も残ります。然し今後も新しい施設を創設し、理想を追い、見はてぬ夢をみ続けていくことでわがままを通させてもらうことにしました。よろしくご寛容の程お願いします。

末筆ながら同窓会の皆様のご発展を祈念致します。

平成8年3月

## 教授就任挨拶



## 加藤寿彦 教授の略歴

- 昭40. 3 九州大学医学部卒業
- 45. 12 九州大学大学院医学研究科修了
- 46. 1 九州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科助手
- 48. 4 福岡大学医学部耳鼻咽喉科学助手
- 56. 6 国立九州がんセンター出向 (57.6まで)
- 平 3. 10 福岡大学医学部助教授 (耳鼻咽喉科)
- 7. 10 福岡大学医学部教授 (耳鼻咽喉科)

## 教授就任ご挨拶

耳鼻咽喉科学 教授 加藤 寿彦

平成7年10月1日付けをもちまして、曾田豊二教授の後を受け耳鼻咽喉科学教室を担当することとなりました。平成7年は関西大震災、地下鉄サリン事件、オウム真理教問題、金・金・金で狂乱したバブルがはじけて、銀行や信用金庫が倒産すると共に日本の金融全体に影響を及ぼすような住専問題など、暗い事件が次々と起こり、それにともない政治の不安定が今年になっても引き継いでいます。この先日本の国はどうか心配ですが、良いことも悪いこともいつまでもは続かないことは、過去の歴史が証明しております。40数億年前にビックバンでこの宇宙が生まれて以来、地球上の人類が成長するこれまでの時間を考えますと、この数年などほんのまたたきをする瞬間にも相当しません。

私の略歴を述べますと、昭和40年に九州大学医学部を卒業し、1年間九大病院でインターン終了後、同大学耳鼻咽喉科に入局しました。昭和46年から2年間九大耳鼻科の助手を勤め、福岡大学に医学部が設立され曾田豊二教授からお誘いを受け昭和48年4月より当大学耳鼻咽喉科の所属となり、今日に至っております。

当初は少人数のため教室体制の整備や臨床に時間をとられていましたが、次第に人も増え教育・研究のための時間を取る余裕もでき

てきました。今後の福岡大学医学部耳鼻咽喉科は福岡大学病院の置かれている立場を考えますと、立派な臨床医を育てること、地域医療に貢献することが必要で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般を網羅しなければなりません。しかし頭頸部領域で、脳・眼・歯を除く部分を専門分野としております耳鼻咽喉科の範囲は非常に広く、日本耳鼻咽喉科学会の下に多くの分科会を持っています。具体的に主なものを上げてみますと日本聴覚医学会、日本耳科学会、日本平衡神経科学会、日本鼻科学会、日本口腔咽頭科学会、日本喉頭科学会、日本気管食道科学会、日本音声言語医学会、日本頭頸部腫瘍学会、日本頭頸部外科学会などがあり、その他にも多くの研究会があります。臨床面ではある程度これらの分野をカバーできますが、研究となると必然的にマンパワーが不足します。そこで研究目的を絞り込まねばなりません。聴覚・平衡系をはじめとして、いままでやや取り残されていた感がありますが、生活の向上とともに人が文化的で豊かな人生を送る上で欠かすことのできない、嗅覚・味覚といった感覚系の研究を行ってゆきたいと考えております。

今後ともよろしく願いいたします。

## 会員寄稿



### 柳川山門医師会副会長及び

### 看護学校副校長就任にあたって

福岡県柳川市 甲斐病院院長 甲斐 保 (2 回生)

まずは自己紹介から始めます。福岡大学医学部には1972年(昭和47年)1回生で入学。その勤勉さが実り、1979年(昭和54年)2回生で卒業。国試対策にも興味を持ち、1980年(昭和55年)国家試験合格。地元柳川に近い事もあって、久留米大学第2内科に入局。その後は父を手伝う事もあり、精神科転入局。平成元年、父が他界し病院を受け継ぎ現在に至っております。

皆様御存知の通り、柳川は北原白秋、川下り、潮干狩り、のり等々で有名な所。人口約46,000人の有明海に面した小さな市です。その近隣する4つの町(山門郡瀬高町、山川町、大和町、三橋町)を含めた医師会を柳川山門医師会と称します。90名弱の開業(設)者(県立病院、町立診療所各1ヶ所)、又勤務医を含め、120弱の医師会員で構成されております。開業医で非会員は「ゼロ」、我が侷な人もいますが比較的まとまりのある伝統ある医師会です。小さな郡市医師会にも福岡大学卒業の開業医、勤務医の方々が増えはじめ、又、柳川山門医師会員の御子息、ご令嬢も福岡大

学在学中、在局中との話を耳にはさむ事も多くなり大変心強く感じております。

本題に入りますが、その医師会で未だ44才になる若輩者(わずか4年の理事経験しかないのに…)が、生意気にも副会長として立候補しました。もちろん選挙となり、相手候補者は超ベテランで県医師会の理事も兼ねておられる方。結果は47票対41票(白票2票)。『分かりやすい執行部、開かれた執行部それに節約』を公約とした私が当選しました。しかしながら、これからが重要であり、多くのことを勉強していかなければなりません。医師会全会員の票の重みを感じながら頑張りたいと思います。医師会の為に福岡大学卒業生である事に誇りを持って、驕る事なく仕事をしていきたいと思っております。皆様の暖かい御支援が何よりの励みとなります。今後ともよろしくお願い申し上げます。又、福岡大学の更なる御発展と皆様の御活躍、御健康を祈念いたしまして報告とさせていただきます。

以上

頑張れ福大 !!

### 同窓会会員名簿の寄付金 ありがとうございます

昨年お届けしました、会員名簿1995年版についてご寄付をお願い致しました所、早速385名の方にご寄付を戴きました。金額にして約115万円程になります。ここに紙上をお借りして厚く御礼申し上げます。なお今回お届けしましたパニックマニュアルについても宜しくお願ひ致します。

福岡大学医学部同窓会 会長 高木 忠博



## 準会員として入会して

福岡大学病院 内科第一 司 城 博 志 (準会員)

私は昭和53年に鹿児島大学を卒業し、直ちに福岡大学第一内科に入局しました。昭和53年は福岡大学医学部の第1回生が卒業した年であり、1回生の人達と一緒に研修をしたことから、漠然とした同窓意識のようなものがあつたのですが、第14回の福岡大学医学部同窓会総会で、他学出身者も準会員として認められるようになり、福岡大学同窓会の一員となりました。

現在、消化器系のなかでも肝疾患を中心に診療を行っていますが、内科系疾患の中でも、特に肝疾患の臨床はここ十数年で大きく様変わりしたと思います。卒業当時は慢性肝炎、肝硬変の腹腔鏡、肝生検をした後は安静、肝庇護を行うだけで、今から考えると何か牧歌的なものでした。食道静脈瘤の破裂の死亡率は高く、超音波ガイド下の穿刺などもようやく導入されたばかりで、今では簡単に行われるPTCDも、当時はかなりの熟練を要する危険な処置でした。肝臓もほとんど巨大腫瘍であり、切除できる事は稀で、診断しても積極的治療はできず、予後も極めて不良でした。しかし、現在では、小肝癌の狙撃生検、肝臓に対するエタノール注入療法、肝動脈塞栓術、最近では埋め込みリザーバーを用いた動注化学療法と肝臓の診療は当時と様変わりしています。食道動脈瘤の破裂も内視鏡的治療で簡単に止血できるようになっています。またB

型、C型肝炎に対するインターフェロン治療など、十数年前には全く行われていなかった検査、治療が肝疾患診療の大部分を占めています。現在、日本では肝硬変、肝癌などの発症のピークを迎えつつあり、また福岡県は平成6年に肝癌死亡率が佐賀県を抜いてとうとう全国一になりました。今後約十数年間は福岡県で肝疾患を診療する医師の最も忙しい時期が続くと思います。

第一内科に入局後、2年間の卒後研修を福岡大学病院で行ったのですが、福岡大学病院の内科研修は、卒後2年目の研修を各内科内のローテーションを行い、内科全般を各subspecialityの専門家の指導のもとで研修できるというユニークなものです。多くの施設では内科系の卒後研修は非ローテート方式であり、すべての分野をsubspecialityの専門家の指導のもとで研修できるわけではありません。各内科の枠を越えてローテーションできる福岡大学のシステムは、内科系の研修制度としては他学にない効率的なものです。現在は各臓器の診療内容も複雑になり、細分化、専門化の方向にあります。卒業後、早い時期に内科全般をしっかりとした指導医のもとで研修できる福岡大学病院の内科系研修システムは、専門化、細分化の方向にある現在にこそ重要だと思います。

## 準会員の募集について

平成7年7月、第14回総会において、他学出身者でも希望すれば我が福岡大学医学部同窓会に、準会員として入会できる制度が発足しました。学内で希望者を募りました所、早速14名の方が入会を希望され会員とされました。もし福岡大学医学部・病院に在籍の方、または在籍された方で、他にも入会を希望される方がおられましたら、下記までご連絡戴きますようお願い致します。

ご連絡先 〒814-80 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会  
電話 092-865-6353 ファックス 092-865-9484

## 今後の同窓会の発展のために II

理事 井上隆則 (7 回生)  
(唐津 進藤病院勤務)

組織が大きく発展するためには、人と金と関心が必要である。多くの人が集まって、大きなお金をかかえて、そして多くの関心が集まった時に、その組織は確固たる実力を行使することができると思われる。では私達の烏帽子会はどうだろうか。私は 7 回卒として、卒業後より今日まで同窓会の状況に関心をもって見てきた人間の一人だと思っている。平成 2 年の会報にも書いたことであるが、金がない、関心がない、人が集まらない同窓会について 2 つの提言をしたことがある。その 1 つである医学部学生に対する介入は、その後、学生会員の明確化や医学祭の援助等の形で具体化されてきた。

では多少なりとも、卒業した会員の烏帽子会への関心は高まったであろうか。毎年行われる総会、懇親会への参加人数が 100 名を越すことはまれであり、顔ぶれも大きな変化はみられない。もちろん、総会の状況だけで、会員の意識や関心の高さを判断することは不適當であるが、長い間、学生との関わりを重視してきた私にとっては、まだまだ、これで十分とは思えないのである。

卒業して仕事についた正会員とちがいで、学生会員はその気になれば全員が一同に揃うことは可能である。私はこれが学生会員の最大のメリットだと考えている。そこで昨年から考えていることであるが、まず 1 年生が入学した時に歓迎の意味をこめ、これから 6 年間の学生生活を激励することも含めて、烏帽子会正会員との懇親の場をもつこと、そこでは同郷、同窓の学生や同じクラブの学生との交流がもたれるだろう。具体的には現在、在学生が中心になって行っている新入生歓迎会を

烏帽子会との合同開催として、そこに多くの烏帽子会会員の参加を促すことを考えている。その場には 100 人の新入生、100 人の在學生、そして 100 人の卒業生が一堂に揃うことを目標としたい。

次は 6 年生が卒業する時に、在学 6 年間の労をねぎらい、これから挑む国試受験への激励を含めて、烏帽子会総会、懇親会の席に新卒業生全員を招待すること、その中では同じ医局にはいる事や、地元の大学に入局する事、あるいは今後の進路の事などについての交流が持たれるだろう。もし 1 年生の時に関わった学生がいれば、6 年間の成長ぶりもうかがうことができる。この時も 100 人の 6 年生と 100 人の卒業生 (正会員) が一堂にそろうことを目標としたい。

以上のような場を設けることで、多くの学生会員 (すべての者がいずれ正会員となる) と多くの卒業生が触れ合うことの意味は計りしれない財産だと思う。その中から、同窓会の存在する意味や関心が育っていくことを願っているのである。

問題は先にもふれた通り、学生会員を集めることはある程度可能としても、いかに多くの正会員 (卒業生) に集ってもらえるかである。私のプランが実現しそうな時には、ぜひとも 1 人でも多くの方々に参加していただいて、気が合った学生会員を二次会の席へ引っ張って行って欲しいものである。その場で私達の豊富な経験を聞かせてあげることと、若い学生会員の気質や思考を吸収することは、お互いに良い収穫になると確信しているものである。

## 教室紹介

### 薬理学教室

昭和49年に当時薬学部薬理学教授であられた古川先生が医学部の創設に伴って初代教授として移ってこられ、この薬理学教室が誕生しました。

当初、古川先生は医学部に加えまだ薬学部の薬理も兼担されておられ、こちらにまだ研究設備も全くないところで大変御苦勞をされたと伺っております。その後、医学部に大学院が設置されることになり、昭和52年に九大・医学部より山田勝士氏が、翌年、東北大・医学部より桂木猛が講師として当教室に着任し、さらに、櫛来和司、守下秀治の両助手も加わり、中枢および末梢神経さらに平滑筋などの末梢臓器に至る幅広い、現在の薬理の研究体制がスタートしました。その後、昭和60年に宮本康嗣氏が内科第一よりMD助手としてこちらに移籍し、平成5年に山田助教授が鹿大の教授として転出した後に、昨年、九大・胸部疾患研より阿部正義氏が助教授としてその穴を埋め、現在のスタッフがそろったわけです。この他に教育技術職員の方の山田博美、大学院には為末敏（一外）、藤木園（一外）、山田勝博（一外）、佐藤安美（健管）、牧野郁子（産婦）、さらに研究生には堂前真理子、徳永良子、桑原豊子、井上勉、桜田二友の諸氏が、またタイピストとして中富美和子嬢が在籍しています。従って教室員は教授以下18名ということになります。

ここで薬理学の研究内容について紹介致します。桂木（現、教授—主任外）、為末、藤木、佐藤（安）のグループは機能系総研の薄根、佐藤両氏の協力を得て、ATPが平滑筋などの非神経性組織から遊離することをつきとめ、その遊離機構やこれがオートコイドとして働く可能性について研究を行なっています。また阿部、堂前、桜田のグループは主に白血球のペプチドロイコトリエンの産生機序とその炎症性疾患に関する臨床薬理学的研究を、さらに櫛来（現、併任講師）、山田（勝）、山田（博）、徳永のグループは交感神経節伝達調節

における神経性ペプチドおよび長期増強効果を誘発する内因性物質の究明を行なっています。守下と宮本はそれぞれATPによる平滑筋収縮に対する外液Ca<sup>2+</sup>濃度の逆相関の効果についての研究とヒト白血球の活性酸素産生に対する漢方薬の効果について検討を行なっており、病態機能系の柴田助手の下で牧野は遺伝子を用いて中枢性ペプチドの機能とそれらの受容体の脳内分布について研究をすすめています。この間の教室の研究業績をまとめて、最近古川先生が「Trends in functional regulation of the autonomic nervous system」というタイトルでAsia Pacific J. Pharmacol. 9 (1994)にreviewを書いておられます。なお、現在までに古川教授が主催された主な学会には薬物活性シンポジウム、精神神経薬理シンポジウムなどをはじめ昭和63年に福岡大学で行なわれた第61回日本薬理学会年会、昨年行なわれた第25回日本神経精神薬理学会年会などがあります。

近年の薬理学はその研究領域を急速に広げつつあり、遺伝子レベルの研究もかなり多くの研究者が着手しています。このような日進月歩の研究環境の下で、また、大学の自己評価が厳しく問われている中で教室員一同、研究に教育にさらに一層の努力を傾けて教室の向上、発展を目指しています。なお、多年にわたって多くの同窓会会員の方々が大学院生や研究生として当教室の研究に参画して頂きまして、現在学位取得者は32名に達しております。最後に、烏帽子会および会員諸氏の今後益々の御発展を心より祈念し、教室紹介を終わります。（文責、桂木）



## 支部便り

### 福岡大学医学部同窓会

## 鹿児島支部会（ぼっけもん会）発足にあたり

鹿児島支部長 山下 互（2 回生）

平成 8 年 1 月 20 日、高木同窓会長を交え鹿児島城山ホテルで福岡大学医学部同窓会鹿児島支部会の設立会が行われ、同日から“ぼっけもん会”が正式に発足しました。正会員数 103 名は福岡北九州について多い支部で、これまで長い間、同会の設立が期待されていました。今回やっと出発でき会員一同ほっとしています。

鹿児島は地元には鹿児島大学医学部があり、医療環境は同大学を中心に整備されています。すなわち福岡大学卒業時に鹿大の医局に入局し医師としての研修を積むか、もしくは一人まえの医者になってから鹿児島で仕事をするかですが、会員の多くは卒業時に鹿大の医局に入局しています。卒後環境の変化で会員はそれぞれに苦労があり、今回このように支部会が発足したことで、これまで以上に横の連絡たてのつなが

りが深まり、日常の研修や仕事により発展できるものと思われます。鹿児島在住の会員の中には、治療の斬新さでニュース番組（全国版）でとり上げられた先生もおられ全員が活躍されています。今後毎年、若い優秀な先生方が当支部に入会して下さることを楽しみにしています。



## 七隈支部設立さる

七隈支部 支部長 林 英之（1 回生）

平成 8 年 3 月 23 日、福岡大学病院臨床大講堂において、高木忠博会長来席の下に、七隈支部設立総会が開催され、多数の出席会員、ならびに欠席会員の委任により七隈支部設立が議決された。直ちに同窓会理事会に対し設立届及び七隈支部規約が提出され、理事会の承認を得てここに七隈支部の設立をみた。

七隈支部は福岡大学に在職、在籍する正会員、準会員、特別会員を含む大きな支部であり、会員数は正会員に限っても約 340 名となる。

支部長に林英之（眼科、1 回生）、副支部長に朔啓二郎（内科Ⅱ、1 回生）、他に評議員 5 名が選出され平成 8 年 8 月の改選まで勤める予定である。

同窓会の母胎というべき医学部、病院を対象とし、きわめて多数の会員を有する七隈支部は、同窓会各支部のなかでも極めてユニークなものであり、今後他支部との連携のもとに、同窓会の進歩発展に寄与する事が期待される。

# 会員数関係情報

**◆正会員数が2000名を突破**

今年第19回生105名が卒業し、正会員の数が2035人となった。ちなみに全会員の数は

- ・正会員 2035人
  - ・学生会員 624人
  - ・準会員 14人
  - ・特別会員 68人
- 合計 2741人である。

[別表1参照]

**◆会費未納は5%**

同窓会費（我が同窓会では終身会費）の未納者は5%（うち一部納入者1.7%）である。決して成績の悪い方ではない。しかし気になるのは会費完納者とそうでない方との落差の拡大である。名簿やパニックマニュアルの寄付をお願いしても、その寄付の願いに応じて戴く会員は殆ど何時も会費完納者である。我が同窓会では今の所この両者を全く差別していない。それは全会員の完納を信じ且つ願っ

ているからである。未完納者には年に2回、督促状を差し上げている。あまり気にされないで、気分の良いとき分割払いでもいいから払い込んで戴きたい。気長く待っています。

[別表1参照]

**◆正会員の過半数は福岡県内に勤務**

会員は目下42都道府県に分布している。そのうち1,108人が福岡県在住（うち福大勤務462人）である。

[別表2参照]

**◆支部は目下のところ15**

福岡県内に7支部、その他九州各県に各1支部と四国支部。現在支部作りの進行中なのが大阪、広島、山口である。

**◆開業（自家勤務を含む）医は449人**

平成3年の同窓会創立10周年の調査（5年前）では、開業医数は200人であった。

[別表2、3参照]

[別表1] 会員数及び会費納入者数

回	学年	会員数	未納者数	未納会費額
1		63	1	20,000
2		83	1	20,000
3		89	1	20,000
4		118	8	160,000
5		111	10	200,000
6		120	10	200,000
7		128	6	120,000
8		150	19	450,000
9		116	13	320,000
10		104	15	335,000
11		118	21	515,000
12		92	1	35,000
13		115	2	70,000
14		98	4	150,000
15		95	1	30,000
16		127	3	120,000
17		104	4	140,000
18		99	1	40,000
19		105	1	40,000
計		2,035	122	2,985,000
20	6年	112	0	0
21	5年	95	2	100,000
22	4年	101	4	200,000
23	3年	113	3	150,000
24	2年	102	2	100,000
25	1年			
計			11	550,000
合計				3,535,000

\*25回生(1年生)は目下会費納入につき数値不確定

[別表2] 正会員分布及び開業状況

(18回生まで)					
都府県別	人数	開業数	都府県別	人数	開業数
福岡大学	462		滋賀県	1	
福岡県	646	218	愛知県	10	2
佐賀県	95	35	岐阜県	5	1
長崎県	90	30	静岡県	1	
熊本県	95	35	山梨県	1	
大分県	55	18	長野県	3	
宮崎県	56	31	石川県	2	
鹿児島県	103	24	富山県	1	
沖縄県	34	4	新潟県	1	
山口県	45	17	神奈川県	4	
広島県	39	5	東京都	28	
岡山県	8	1	埼玉県	2	2
島根県	4	2	千葉県	9	1
鳥取県	5	1	群馬県	1	
香川県	11	6	茨城県	1	
徳島県	4	1	福島県	2	1
愛媛県	13	2	宮城県	2	
高知県	6		秋田県	1	
兵庫県	13	3	青森県	1	1
大阪府	28	4	北海道	6	
和歌山県	4	3	国外	23	
奈良県	3		合計	1930	449
京都府	6	1			

\*開業欄の数字には自家勤務数を含む

[別表3] 開業医

(18回生まで)			
回	開業	自家勤務	計
1	35	4	39
2	40	10	50
3	30	12	42
4	56	11	67
5	35	12	47
6	39	14	53
7	26	13	39
8	23	17	40
9	10	8	18
10	12	8	20
11	7	7	14
12	5	1	6
13	3	2	5
14	2	4	6
15	0	1	1
16	1	1	2
合計	324	125	449

福岡大学

# 附属大濠中学校を開校

中高一貫教育・九州の「灘」を目指す

附属大濠高等学校に併設して設置された、福岡大学附属大濠中学校の開校式並びに第 1 回入学式が、4 月 5 日午前 10 時から新入生 89 人をはじめ、父兄、来賓、本学関係者など約 400 人が出席して、大濠高校第一体育館で挙行された。

この中学はその教育の特色を次のように掲げている。

1. 生徒中心。教壇は設けず生徒と同じ目線の教育。生徒は名札を付けず全生徒を教師が把握。学校、家庭、社会との深い連携。
2. 6ヶ年一貫教育。独自の教育課程、独自の行事。
3. 志望大学への現役合格保障。ハイレベルの大学進学、現高校の特別進学クラスを凌ぐ。
4. 少数クラス。余裕の学習進度、中学 3 年より高校課程。
5. 意欲的、自発的学習。落伍者を出さない、個別指導、補習授業。
6. 積極的な部活の奨励。活発な生徒会活動から自主性を。課外学習、体験学習から創

造性を。文化、芸術、体育活動から情操教育の充実。

7. 文化施設の積極的な利用と活用。視聴覚教育、パソコン教育等の積極的導入。
8. 自主活動、グループ学習、自学自習を通じて個々が尊重される人格の養成。社会に歓迎される人間性の追求。地域や子供会との交流、立場の理解。海外研修の奨励。

また入学式の挨拶で近藤達男校長は「担当職員一丸となって全力を傾注し、福岡都市圏の中核となりうる私立中、高等学校を目指し、今まで福岡都市圏から流出していた優秀な小学生を、地元に残り留める事ができる学校へと発展させ、近未来において久留米大附設を凌ぎ、九州における灘と評価される学校に築き上げていく事が設立の主旨でもあり、福岡都市圏の人々の期待に応える事になります。教師の意欲と生徒の努力が 6 年後に見事、大輪の花を咲かせることを期待し、また必ず実現させる事をお約束します。」と述べた。

## 制 服



夏 シャツはコットン生地のポロシャツです。ズボンにはスポーティーなものを用意しました。



冬 チャコールグレー。詰め襟であってその感じを与えないソフトなもの。デザインは市内周辺にはない、初めてお目見えするタイプです。

# キャンパス便り

## 第15回医学祭を開催して

実行委員長 高橋 聡 (M5)

秋のおだやかな陽気の中、11月2日から5日にかけて学生の最大のイベントである、「第15回医学祭」を開催いたしました。今年はテーマに「W i l l」をかかげ、学生自ら参加したくなるような“魅力ある医学祭”を目指し、実行委員を中心に準備を進めてきました。また、今年は「第1回文化発表週間」から数えて15回目で一つの節目でもあり、例年にもまして企画数の増加と質の充実を図りました。医学展では医療器具・老人介護用品展示、H I V パネルセッションなど新しい企画を取り入れ、また、特別講演として川田龍平さんをお祭り企画でもタレントの飯島直子・網浜直子をまねき、さらに後夜祭での七隈祭との共同企画を行うなど、無事かつ盛大に催すことができ、また福岡大学医学部の存在を学内

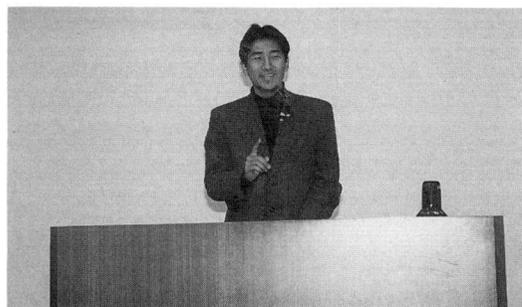
外に大きくアピールすることができました。

これも一重に医学祭を開催するにあたり、私共を支えてくださった関係各位の皆様のお陰であり、特に高木先生をはじめとする同窓会の諸先輩方には様々な御指導、御協力を頂き実行委員一同、心から御礼を申し上げますとともに、私達の不手際でご迷惑をおかけ致しましたことを深くお詫び申し上げます。

また、既に平成8年度の医学祭にむけて、第16代実行委員長の前川信一君を中心とした新しい実行委員が活動を開始しており、医学祭のさらなる飛躍のために努力しているところであります。時期尚早ではありますが、皆様の変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

### 「第15回医学祭会計報告」

収 入		支 出	
一般広告	1,331,500	医学展	718,612
O B 広告	550,000	第一企画	1,372,108
父兄広告	165,000	第二企画	115,164
西医体援助費	1,000,000	特別講演	484,713
後援会援助費	300,000	後夜祭	78,007
医学祭補助費	150,000	パンフ・ポスター製作費	788,844
同窓会援助費	300,000	ステーシ* 設営費	184,905
保健所援助費	300,000	運営費・雑費	365,372
繰越金	287,032		
計	4,399,532	計	4,107,725
		残 高	291,807



講演する、川田龍平氏



特別講演会

## ラグビー愛好会

主将 田村智章(M4)



我々ラグビー愛好会は現在部員16名、マネージャー5名という構成で活動しています。大会は九山、西医体の他に秋のリーグ戦に参加しており、主に九山に力を注いで練習に励んでいます。ラグビーは15名とするスポーツで部員が16名というのは練習するにしても、試合に参加するにしても、少なすぎる感がありますが、その反面統率しやすく、部内の雰囲気も非常に明るいものとなっています。九山前の練習は結構ハードですが、各自が、部員が少ない事を意識して練習に励み、その結果、昨年の九山では久しぶりに3位という好成績を残せました。西医体は直前にテストがあり、あまり練習はできませんでしたが、ベスト16に入るという成果をあげました。これからも、All for One, One for Allというラグビー精神のもと、全員で団結して練習に励み、九山優勝という目標を達成するべく、頑張って行こうと思います。

## バスケットボール愛好会

主将 伊東 威(M4)

現在、福岡大学医学部バスケットボール愛好会は、男子20名、女子10名の総勢30名で活動しています。和気あいあいとしたアットホームな愛好会です。

去年は、体育学部のコーチについてもらい、バスケットボールの基本的な動作から教えて



いただいて、初心者の多い私達には非常にためになりました。そのおかげで男子は、九山で念願の一勝を挙げベスト8に入ることができました。女子は、九山、西医体ともに1ゴール差で負けましたが、試合内容は徐々に良くなってきています。

OBの先生方が築かれた伝統を受け継ぎ、その伝統を守りながら一生懸命練習に励もうと思います。応援よろしくお願い致します。

## 準硬式野球愛好会

主将 福嶺紀明(M4)

現在、我が準硬式野球部は、部員数11人(6年生:2人、5年生:1人、4年生:2人、3年生:5人、2年生:1人)と、たいへん少ない部員数で活動しております。

現在の活動状況は、基礎体力作りを中心に、4月下旬に行われる九山大会に向けて毎日練習しています。しかし部員数が少ないため思うような練習ができないので、今年は新入生をできるだけ勧誘し、沢山入部させたいと思っています。

先輩達の築いて来られた数々の栄光に背き、ここ数年の九山大会の成績は予選敗退と残念な結果に終わっていますので、今年の九山大会こそは予選突破を目指し、先ずは1勝を挙げる事に全力で頑張っていく覚悟です。そして九山大会に続いて行われる選手権大会、西医体大会も、去年は自分達の力を出しきれずに、不本意な結果に終わっていますので、今年こそは何がなんでも昨年以上の成績を残したいと思っています。九山大会まで残り1ヶ月となりましたが、部員全員の気合いも高まっ

てきましたので、今年はOBの皆様方に良い結果をご報告できる事と思います。どうか今後ともOBの皆様方のご支援、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

(第33回西医体優勝・第17回全医体優勝-編集部)

## アーチェリー愛好会

主将 田辺 寛 (M4)



皆様こんにちわ。我がアーチェリー愛好会は、最も古く創設されたクラブの中の1つということで、この度この様なクラブ紹介を載せて戴けることになりました。誠に有り難うございます。

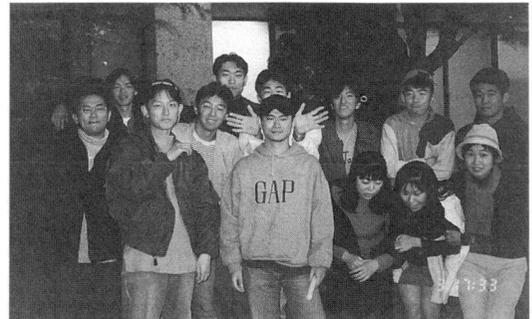
アーチェリー愛好会は、創部当初より産婦人科の白川教授に顧問をして頂き、現在では男子13名、女子4名の個性豊かな17名が集まり、春は対抗戦、夏は全国大会、秋は市の大会を目標とし、週3回“楽しく”をモットーに和気藹々と活動しています。

昨年、OBの方々の援助により立派な小屋を建てる事が出来、より一層安全にかつ集中して練習を行えるようになりました。その甲斐があつてか、夏に行われた全日本医科学学生アーチェリー大会においては、団体で準優勝という華々しい結果が得られました。今年はこの勢いに乗り優勝できるよう励みたいと思います。

また、クラブ活動とはそれを通して“様々な事を学ぶことのできる場”であると私は考えています。我がアーチェリー愛好会でもOBや他校との交流の中で、自ら得た事に自分なりのプラスαを加え、それらを後輩に伝えてゆけたら幸いだと思っています。これからも頑張りますので、よろしく願い致します。

## ゴルフ愛好会

主将 榎 信一郎 (M4)



我々ゴルフ愛好会は部員20名、マネージャー3名で活動しており、西医体・九山の他に5月の産業医科大学、久留米大学との3校定期戦、8月の医歯薬リーグに参加しています。練習は週2回で、近くの練習場に行き先輩達のアドバイスを受れたり、それぞれが自分の能力に応じた練習を取り入れています。試合は5人しか参加することができませんが、それぞれがメンバー目指して頑張っており、部の雰囲気も明るく楽しく練習を行っています。その結果、後輩達の成長も著しく、昨年の九山では団体戦優勝、個人戦2名入賞という好成績を残すことができました。西医体の方は練習ラウンドで1人負傷してしまい、途中棄権という残念な結果に終わってしまいました。今年は九山では今年以上の成績が残せるよう、西医体の方も入賞できるよう、部員一丸となって頑張っていこうと思います。

ここに掲載した5つの愛好会は医学部発足と同時に結成された愛好会である。

現在、医学部には26の愛好会がある。今後は毎号そのいくつかを結成順に紹介する予定である。

(編集担当)

福岡大学病院

曜日別外来診療担当医表

平成 8 年 4 月 1 日現在

		月	火	水	木	金	土	
内科	初診	吉田 佐々木 久野 千手 二田 小河原 早田 武田 王 仁位	西丸 亀井 広岡 向野 兼岡 笹栗 岡部(調)	荒川 内藤 木村 岡部(調) 石橋 松永 松尾 漢	奥村 中根 司城 川浪 瀬尾	浅野 出石 朔 有富 前田 侖 森岡	岡田 木下 渡辺(調) 小田(調)	
	再診	内一	浅野 漢	小野 俞 [2階 神経] 中根 川浪	奥村 小田(調)	久野 木村 鈴宮 渡辺(調) 森岡 安西 漢 [2階 神経] 西丸 亀井 広岡	岡部(調) 早田 二田	司城 [2階 神経] 予約再来
		午後専門		岡田 眞	前田 金	瀬尾 王	金	
	科	内二	笹栗 豊島 松尾 田代	内藤 仁位 小河原 武田	吉田 佐々木 出石 村田 有富		荒川 向野(調) 渡辺(調) 木下 石橋 兼岡 松前 千手	佐々木 朔 松永 白井 野田 浦田
		午後専門						
		循環器再来	岡部(調)					
	東洋医学	初診再診 清水(針灸)(予約制)			宮本(漢方)(予約制)			向野(針灸)(予約制)
外科 第一	池田 濱田 真栄城 嘉数 宮崎		池田 安波 濱田 嘉数 富田 (白井) 廣吉			安波 濱田 田中 笠 宮崎 廣吉		
外科 第二		白日 秀島 岩崎 岡林 酒井 安藤		白日 山下 川原 前川 白石 衣笠			交代制	
心臓血管外科		交代制	木村 中村(調) 中村(調)	交代制	田代 助廣 芝野 岩隈	予約のみ 木村	交代制	
整形外科	初診再診	内藤 浅川 石西 藤星子 有田 副島 (再診のみ)	葉 諫山 井上 原 毛利	緒方 諫山 緑川 副島 山田 有田	浅川 石西 佐伯 藤原 江本	葉 内藤 柴田 原 薛 毛利	交代制	
	☆専門外来		膝外来(12:30~15:00) 緒方 原	リウマチ(12:30~15:00) 井上 石西	スポーツ(12:30~15:00) 岩本	肩外来(12:30~15:00) 柴田 緑川		
形成外科	初診・再診 午後専門 外来	大慈弥 佐藤 特殊小児外来(12:30~15時) 大慈弥			大慈弥 萩家		萩家	
産婦人科	初診・再診 (毎日初診可)	和泉 (超音波) 江本 瓦林	金岡 蜂須賀 詠田 白川	江口 (超音波) 福田 金岡	和泉 江本 牧野 瓦林	蜂須賀 (超音波) 詠田 牧野	交代制 白川	
	午後 専門 再来	腫瘍 江口 江本 不妊・内分泌 体外受精 分娩期	蜂須賀 江口 江本 詠田 新堂 倉島 本庄	新堂 倉島 本庄 詠田 牧野 福田		蜂須賀 江口 江本 新堂 倉島 本庄 詠田		
放射線科		神宮 秋田	北川 乳腺外来 藤光	岡崎		神宮 秋田		
皮膚科	初診再診	古賀 渋江	利谷 清水	利谷 渋江	古賀 清水	利谷 古賀	交代制	
眼科		大島 加藤 松井 山道 河島	予約再来	大島 林 大里 廣重 木村	予約再来	林 加藤 蜂谷 中川 岡本	予約再来	
泌尿器科	初診再診	他科初診(病棟のみ) 予約再来	有吉 田原 大島 江本 三浦	他科初診(病棟のみ) 予約再来	大島 辻 道永 有吉 田原 松岡	他科初診(病棟のみ) 予約再来	松岡 三浦 辻 江本 道永	
耳鼻咽喉科	初診再診	周防屋	木村K 周防屋 加藤 柴田 加藤	毛利	江浦 柴田 加藤 木村K 木村S 坂田 周防屋 加藤	柴田 木村S 坂田 江浦 木村K 柴田 周防屋 (腫瘍外来)	木村S 坂田 周防屋	
小児科	初診再診	満留 浜本 山口 新居見	小田 廣瀬 小川	満留 山口 柳井	小川 廣瀬 廣瀬	柳井 山口 山口	小田 浜本 廣瀬 小川	
	☆ 専門外来	(発達・心理) 満留	(血液) 丹生 柳井 (リウマチ・膠原病) 小田 廣瀬	(腎臓) 津留 新居見 (小児喘息・アレルギー) 13:30~15:30 雪竹 諸岡	(循環器) 小田 浜本 (発達再来) 13:30~14:30 雪竹 (新生児) 雪竹	(神経) 満留 安元 小川 (発達再来) 小川 (内分泌・代謝) 喜多山 伊藤 (頭痛) 満留		
	午後 専門外来		(内分泌・代謝) 廣瀬	13:30~15:30 山口				
脳神経外科		朝長 福島 岡 山本 長坂		福島 岡 山本 長坂		朝長 福島 岡 山本 長坂		
精神神経科	初診	早稲田 村田 米澤 (予約制)	西園 古井 (予約制)	福井 米澤 (予約制)	堤 三野原 (予約制)	西園 早稲田 (予約制)	堤 福井 (予約制)	
	他科受診 (リエゾン)	古井 (予約制)	西村 (予約制)		古井 (予約制)	古井 (予約制)		
経絡科	知能心理テスト併行 専門 再来 予約 児童思春期外来	福井 伊藤	福井	皿田 (予約制) 堤 早稲田	皿田 (予約制) 早稲田 伊藤 米澤	堤 米澤 三野原	古井 米澤 三野原 堤 高尾	
麻酔科		檀 平田		檀 比嘉 平田		檀 比嘉 平田		
健康管理科		宗清 和田	小川 浦川	守田 長谷川	蓑田 仁位	松村 稲田	小川 蓑田	
歯科		都 喜久田 古川 古賀 後藤 瀬戸 豊福	予約再来	喜久田 古川 古賀 後藤 瀬戸 豊福	予約再来	都 喜久田 古川 古賀 後藤 瀬戸 豊福	予約再来	
口腔外科	初診	午後予約再来		午後予約再来		午後予約再来		
内視鏡		外1 放射線	内1 内2 (PM)	健管 外1	内1 外2	健管 外1 外2	放射線 外2	
リハビリテーション科		岩崎 (西丸 中根)	安部	岩崎 (西丸 中根)	安部	岩崎 (中根)	安部	

福岡大学筑紫病院 曜日別外来診療担当医表

平成8年4月1日以降

		月	火	水	木	金	土	備考	
内科第一	内科第一	脇山 三好	高雄	古部 古木	諸江 宮脇	広木 宮脇	ローテーション		
	内科第二	池田(昭)	佐々木 池田(昭)	二宮			和田		
	消化器科	坂口 真松 武村 岡	八尾 櫻井 頼岡・大田	戸原 頼岡 田津	中林 竹中 古川(高) 光安 雄木 植木	八尾(建) 植木原 大小川	松井 田中 平井 高木		
	予約 再来	AM	広木 宮二	二宮 戸原	脇山 田(昭) (坂口)	高佐 々々 植木	諸江 古部 古三 三好 木井	ローテーション	
		PM	坂口 中真二 武宮	八尾 戸野 古川(高) 二宮	(坂口) 二宮	中林 竹中 AM (植木)	佐々 々々 木井		
専門外来 1PM-3PM		循環器	糖尿 病泌 尿分	循環器					
内科第二	X線	八尾(建) 古川(高) 古川(敬) 平井 嶋津	真古武 古川(高) 高木 頼岡	櫻井 平井 高木	八尾(建) 池田 松村 小嶋 嶋津	松井 光安 古川(敬) 嶋津 大田	竹中 池原 大小 大川 田		
	内視鏡	櫻井 田中 古川(高) (竹中) (池田)	松井 帆足 八尾(建) 松村 山田	竹中 古川(高)	真武 高木	真武 平井 高木 (櫻井)	古川(敬) 古川(高) 村		
	T C F	竹中(第2・4) 八尾(建)	帆足 (八尾(建) (真武) (山田))	竹中 帆井 平川(高)	真武 足井	八尾(建) 真武 平井 (竹中)			
消化器科	腹部エコー	植木 戸原 光大	戸原 中田 大川 小嶋	中林 植木 田安 光川	嶋野 岡原 大田	(放射線科) 野野 小高	岡野 嶋村 松津		
	造影エコー	中林	戸原		植木				
	心エコー	高古 雄木	古部	諸江	脇山	宮脇			
小児科	AM	津留 大島 府田	山戸 藤川	大府 奥陳	諸岡 藤川	(腎)津留 山戸 島田	藤川/島田 陳/奥	陳(第1・2水土) 奥(第3・4水土)	
	専門		(アレルギー) 岡		(神経)大府 (血液)柳井	(アレルギー) (循環器)山戸		血液第2木曜のみ	
外科	西田 大河 原	有馬 二見	古藤 立川	山崎 立石(訓)	有馬 二見	高橋 ローテーション			
整形外科	松崎 城戸	足達 有永	松崎 池田	足達 後藤	城戸 田	ローテーション			
脳神経外科	吉永	ローテーション	田中(上野)	ローテーション	中山	ローテーション			
泌尿器科	予約 再来	平塚 中村 約	予約 向野 木村(浩) 五嵐	平塚 石井 約	予約 志加 山本	石井 中村 約			
眼科	志加 加山	賀藤 本園	予約 再来	予約 再来	予約 再来	予約 再来			
耳鼻咽喉科	森池 宮道 祖	手術 日	森池 宮道 祖	手術 日	森池 宮道 祖	特再 殊来			

医局長・医長名簿

診療科	医局長	病棟医長	外来医長
[福大病院]			
内科第一	兪 孝 一 ③	二 田 哲 博 ⑨ (6西)	渡 辺 洋 ④
〃		中 根 和 彦 (6北)	〃
内科第二	松 永 彰 ③	野 田 慶 太 ⑥ (6東)	村 田 敏 晃
〃		村 田 敏 晃 (6南)	〃
精神神経科	福 井 敏	川 谷 大 治	早 稲 田 隆 ⑨
〃 (ディケア)			伊 藤 正 訓 ⑩
小 児 科	廣 瀬 伸 一 ③	安 元 佐 和 ⑦	柳 井 文 男
外科第一	嘉 数 徹 ④	田 中 伸 之 介 ⑤	濱 田 雄 蔵
外科第二	秀 島 輝 ④	前 川 隆 文 ②	白 石 武 史
脳神経外科	長 坂 進	継 仁 ⑧	長 坂 進
心臓血管外科	中 村 克 彦	助 広 俊 吾 ③	助 広 俊 吾 ③
整形外科	柴 田 陽 三 ④	副 島 修 ⑨	井 上 敏 生
形成外科		萩 家 康 弘	
皮膚科	清 水 昭 彦	洪 江 賢 一	清 水 昭 彦
泌尿器科	辻 祐 治 ③	松 岡 弘 文 ⑧	田 原 春 夫 ⑤
産婦人科	江 本 精	牧 野 康 男 ⑧ (3東)	和 泉 秀 隆
〃		蜂 須 賀 徹 (3北)	〃
眼 科	蜂 谷 隆 彦 ⑧	大 里 正 彦 ⑨	松 井 孝 明 ⑪
耳鼻咽喉科	木 村 謙 一	木 村 俊 治 ⑧	柴 田 憲 助 ⑨
放射線科	野 崎 善 美 ④	秋 田 雄 三	東 原 秀 行 ⑥
麻 酔 科	生 野 慎 二 郎 ⑧	平 田 和 彦 ⑫	平 田 和 彦 ⑫
健康管理科	松 村 洋 ⑨	蓑 田 智 憲 ④	仁 位 周 介 ⑧
歯科口腔外科	古 賀 勉	逸 見 精 児	豊 福 明
病理部	岡 村 憲 子		
臨床検査部	安 西 慶 三		
輸血部	鷹 野 壽 代		
救命救急センター	大 原 元 太 ⑧	白 井 善 太 郎 ⑤	
[筑紫病院]			
筑紫病院	水 城 透 ③		
内科第一	宮 脇 龍 一 郎	副 : 占 部 嘉 男 ⑤	諸 江 一 男 ③
内科第二	二 宮 寛 ②	副 : 池 田 昭 仁 ⑧	副 : 二 宮 寛 ②
消化器科・内視鏡部	竹 中 国 昭 ③	八 尾 建 史	副 : 中 林 正 一 ②
小 児 科	大 府 正 治 ②	山 戸 康 司 ⑩	大 府 正 治 ②
外 科	山 崎 宏 一 ④	大 河 原 建 也	立 石 訓 己 ⑧
整形外科	城 戸 正 喜 ①	池 田 正 一	有 永 誠 ⑧
脳神経外科	吉 永 真 也 ⑤	中 山 義 也 ⑨	吉 永 真 也 ⑤
泌尿器科	石 井 龍 ⑤	中 村 英 樹 ⑧	石 井 龍 ⑤
眼 科	志 賀 宗 祐 ⑩	志 賀 宗 祐 ⑩	加 藤 博 彦 ⑫
耳鼻咽喉科	宮 城 司 道 ⑨	宮 城 司 道 ⑨	宮 城 司 道 ⑨
放射線科	小 野 広 幸 ⑦		
麻 酔 科	水 城 透 ③		
病理部	溝 口 幹 朗 ⑥		

○内の数字は卒業回

教員人事 (講師以上)

'95.10.2 ~ '96.4.1 円内の数字は福大医学部卒業回

項目	所 属	資 格	氏 名	発令日	備 考	
退職	筑紫耳鼻咽喉科	教授	調 重 昭	'96. 3. 31		
	衛 生 学	教授	江 崎 廣 次	'96. 3. 31	定年	
	泌 尿 器 科 学	教授	坂 本 公 孝	'96. 3. 31		
	病 理 学 第 一	助教授	竹 下 盛 重 ③	'96. 3. 31	国立病院九州医療センター	
	外 科 学 第 一	助教授	梅 野 寿 実	'96. 3. 31	小倉・新栄病院	
	放 射 線 科	講師	坂 田 博 道	'96. 3. 31	白木原・原病院	
	救命救急センター	講師	鳥 谷 裕	'96. 3. 31		
	整 形 外 科 学	講師	池 田 実	'96. 3. 31	国立療養所霧島病院	
昇格	筑紫小児科	講師	諸 岡 達 也 ②	'96. 3. 31	開業	
	内 科 学 第 二	講師	熊 谷 浩 一 郎 ⑦	'96. 3. 31	海外留学	
	筑紫耳鼻咽喉科	教授	森 園 哲 夫	'96. 4. 1		
	病 理 学 第 一	助教授	大 島 孝 一	'96. 4. 1		
	麻 酔 科 学	助教授	櫻 木 忠 和 ③	'96. 4. 1		
	腎 セ ン タ ー	助教授	兼 岡 秀 俊	'96. 4. 1		
	小 児 科	講師	雪 竹 浩 ③	'96. 4. 1		
	病 理 部	講師	鈴 宮 淳 司	'96. 4. 1		
採用	精 神 神 経 科	講師	伊 藤 正 訓 ⑩	'96. 4. 1		
	外 科 第 一	講師	嘉 数 徹 ④	'96. 4. 1		
	泌 尿 器 科 学	講師	松 岡 弘 文 ⑧	'96. 4. 1		
	産 婦 人 科	講師	詠 田 由 美 ③	'96. 4. 1		
	病 理 学 第 二	助教授	ト ー ト ・ チ ボ ー	'95.12. 1		
	異動	泌 尿 器 科 学	教授	有 吉 朝 美	'96. 4. 1	筑紫病院より
		筑紫泌尿器科	助教授	平 塚 義 治	'96. 4. 1	医学部より

会 議 報 告

◆7-5 理事会

平成7年11月24日 (金) 19時

1. 準会員加入申請者の審査
2. 支部届の審査  
筑後、大分、宮崎、筑紫
3. 研究助成金制度について
4. 平成9年度、第16回総会について

北九州、嘉飯山、熊本、鹿児島

2. 準会員加入申請者の審査
3. 研究助成金制度について

◆7-6 拡大理事会

平成7年12月22日 (金) 19時

1. 支部届の審査  
筑紫病院、佐賀、沖縄、福岡
2. 七隈支部設立について

◆7-8 理事会

平成8年3月1日 (金) 19時

1. 研究助成金制度について

◆7-9 理事会

平成8年3月22日 (金) 19時

1. 研究助成金制度について
2. 平成7年度収入支出決算見込
3. 平成8年度収入支出予算
4. 7-2 評議員会について
5. 8-1 評議員会について
6. 第15回総会について

◆7-7 理事会

平成8年1月26日 (金) 19時

1. 支部届の審査

## 事務局よりご連絡

## パニックマニュアル第Ⅱ版希望配布について

パニックマニュアル第Ⅱ版を、この会報と一緒に oversend しましたが如何でしたでしょうか。もし別に配布ご希望の方があれば、まだ少々余分がありますので 1 冊 3,000 円でお頒け致します。ご希望の方は、直接同窓会事務局において戴くか、郵便振替用紙の通信欄にその旨ご記入の上、1 冊につき 3,000 円を下記口座宛振り込んで下さい。

振替口座 01760-3-39395 福岡大学医学部同窓会  
\* 送料は当方で負担します。

## 同窓会の保険へ加入のお誘い

我が同窓会では、三井生命及びアリコジャパンと契約して各種の保険を取扱い、その手数料取入を同窓会運営や事業経費の一助に当てています。下記はその一部ですが、この他にもあらゆる分野の保険を扱っていますので、会員の方が保険に加入される時には、ぜひ同窓会扱いの保険にご加入して戴きますようお願い致します。

## \* 三井生命 扱い 担当 多田 由美子

- ◆ 終身保険……高額保障と、生涯保障、ご希望の方には家族年金も。  
・大樹 暖家族 (あったかぞく) ・大樹 スター ・メッセージ
- ◆ 養老保険……高額保障とご希望に応じ資金準備も。  
・大樹 らいふプラン ・ザ・らいふ
- ◆ 連生終身保険……夫婦お二人の高額保障と生涯保障  
・大樹 夫婦の保険 Mighty ・夫婦の保険 Unity
- ◆ 疾病・医療保険  
・特定疾病保障保険 ナイスリー ・医療保険 アシスト ・医療保障保険 (個人型)
- ◆ 海外旅行生命保険

## \* アリコジャパン 扱い 担当 南 修二

- ◆ 所得保障保険……病気や怪我で働けなくなった時の保障  
35才男性、保障額月50万円、障害死亡2,500万円で、保険料月額11,000円
- ◆ 福医協グループ保険……福岡県内の開業医、勤務医加入可。加入は告知書だけ。  
40才男性、死亡保険金5,000万円で、保険料月額9,650円。
- ◆ 勤務医・医師賠償責任保険……複数病院の医療業務すべて対象。年払い、月払い選択可。

自動車保険も扱っています。(保険料各社共通、無事故実績も継承)

お問い合わせは

三井生命 多田 由美子 : 092-883-1480 または 030-418-8636  
アリコジャパン 南 修二 : 092-542-6280  
医学部同窓会 池田 静夫 : 092-865-6353 (直通) 内線は 3032

## 編集後記

今年は、三月下旬の暖かさと四月の寒の戻りで、桜の見ごろが続きました。皆様の処ではいかがでしたか。

数年前から、三月に国家試験があり（今年は3/16、17）4/19に発表、結果は新卒者で89/104 85.8% 既卒者で18/32 56.3%でした。本当におめでとうございます。

さて、これで皆さんはようやく名実ともに社会人の一人になったわけです。医者はとかく常識がないといわれています。自分自身を振り返ってみてもやはり当たっている様な気がします。

将来皆さんがおかれる立場は、大学病院・病院・医院・研究室であろうと、そのグループのリーダー的存在であることが、ほとんどだろうと思います。そのいろいろな場で、誰が聞いてもなるほどと、納得いく“常識”を持ち、現場で働く人・弱い立場の人が動きやすい様な場がつけられる医者になって下さい。そして、Public Mindを持った“社会人”として御活躍されることを期待します。 強い自戒の念をこめて

（文責 笠）

## 烏帽子会会報第20号

発行日 平成8年5月20日  
発行人 高木 忠 博  
編集人 武 末 佳 子  
発行所 〒814-01  
福岡市城南区七隈7-45-1  
福岡大学医学部同窓会  
電話 092-865-6353（直通）  
092-801-1011（代表）  
内線 3032  
FAX 092-865-9484

印刷所 〒810  
福岡市中央区長浜2-1-30  
ロータリー印刷（株）  
電話 092-711-7741  
FAX 092-711-7901